

彼がさらに長寿を与えられたならば、傑出した衛生学者として優れた学問的体系を築き上げたものと思われる。

(福井県立短期大学第一看護学科)

日本医療団 (第二報)

—戦後の活動と九州地方の医療団施設—

佐久間 温 巳

一 昨年の総会で、大正末年より十数年に及ぶ医療制度改革論議の過程と、その結果として生まれた日本医療団(以下、日医団と略す)を、昨年は主として戦時中の日医団の活動を取りあげたが、今回は日医団の戦後の情況をのべるとともに、九州地方における日医団施設とその変遷について報告する。

戦前・戦中に設立された国策機関は、占領軍によって戦後早期に解体されたが、日医団はその特殊性から処分が見送られていた。しかし、戦時中のような形態、運営は望むべくもなく、次のごとき変質を余儀なくされた。

(一) 戦時色の払拭

医療関係者徴用令(十六年十二月十五日公布)や戦時医療措置要綱(二十年四月二日閣議決定)などの戦時諸法令

は二十年十二月に廃止されたが、日医団は厚生省の指導で早くも二十年九月三日に「戦時医療措置要綱実施に関する件」を通達し、戦時中に日医団が徴用した医師や施設の徵用解除の準備を始めた。

(二) 民主化の推進

(イ) 労働組合の誕生

全国的な風潮に乗って日医団にも二十一年一月二十三日、本部職員組合が結成されたのを皮切りに、各施設にもぞくぞく組合が作られ、二十一年三月三十日にはこれらが結集して全日本医療団従業員組合が誕生し、日医団の運営などに大きな影響を及ぼした。

(ロ) 経営の民主化

二十一年四月一日、日医団支部参議員設置規程と日医団施設参与員規程が通達され、全国の日医団支部に一般住民より選ばれた二〇ないし三〇名の参議員を、各施設にも同様に一〇ないし二〇名の参与員をおき、日医団の管理運営に民意を反映させる道を開いた。

一方、活動内容にも次のような変化がみられた。おおむね年代順に記す。

(一) 花柳病診療所の設置

二十年九月二十二日の連合軍司令部命令「公衆衛生対策等に関する覚書」にもとづき、主に占領軍進駐地域にある日医団施設に花柳病診療所が開設された。その数は二十一年四月現在、全国で四〇施設に達し、二十一年度中にさらに五〇ヵ所に開設すべく準備をすすめた。

(二) 戦災地区医療施設復興計画要綱

二十年十二月二十七日に通達されたもので、必要に応じて戦災地に都道府県病院（規模は二〇〇ないし三〇〇床）を、一〇〇床程度の地方病院を設置するという内容であった。これはこの時点ではなお日医団の存続を明らかに意図していることを示している。

(三) 日医団施設の開放

二十年十二月二十七日に通達された「一般開業医に対する本団施設の開放に関する件」によるもので、戦災で荒廃した開業医施設の不備を補う目的であったが、実績をあげるまでには至らなかった。しかし、本邦における戦後初のオープン・システムの導入として注目されるべき施策であったといえよう。

(四) 医療施設の統合

二十一年八月「医療施設統合暫定措置要綱」が決定され、以前から進めていた民間や公益法人立の医療機関を統合するための基本方針を示したもので、なお日医団の存続を明確に意識した施策であったといえる。

しかし、インフレの進行や、財源とした医療債券の発行ができなくなったことなどで、日医団の財政は極度に窮迫し、他方、戦時色の濃い統制的な医療経営に対する批判もあって、日医団は自らの手で解体を進めることになる。

(一) 奨健寮の処分

二十一年一月二十一日の総裁通達「奨健寮整理に関する件」にのっとり、まず奨健寮の整理が始まった。

(二) 結核療養所の国営移管

二十二年四月一日、日医団傘下の結核療養所八一施設と一一の奨健寮が厚生省に移管され、はじめて、一般国民が利用しうる結核療養所を国が運営するという体制ができた。

(三) 一般医療施設の処分

このために設けられた医療制度審議会の答申によって、

日医団の一般医療施設は公立医療機関として残すことになり、戦後医療の一つの特徴である、医療の公営化がひろがった。

(四) 日医団の解散と消滅

「医師会、歯科医師会及び日医団の解散に関する法律」によって、二十二年十一月一日に解散したが、なお傘下に多数の医療施設を保有していたため、清算部門は存続することになり、長い清算期に入った。日医団が完全に消滅したのは五十二年十二月二十二日であった。

清算をすすめるうちに相当の剰余金が生じたので、昭和三十年、無医村をなくし医療の普及をはかるという日医団本来の目的を達成するため、主に全国の国公立病院に総額七億円の設備充実助成金を交付した。

かくして日医団は姿を消したが、その設立運営の経験から戦後の医療政策立案に与えた影響は大きい。これらの点について言及するとともに、九州地方の日医団施設に関しても報告する予定である。

(西尾市民病院)